

SDGs 経営に 役立つ ISO14001 (2)

角子 裕司

特集

前号に続き、SDGsへの取組みにISO14001を活用する方法について取り上げます。前回は、ISO14001をSDGs経営に繋げるツールとしての活用方法、取組みへのヒントをご紹介しましたが、今号では、さらに取組段階と取組み事例について、ご紹介いたします。導入検討・活性化のご参考にしていただければ幸いです。（編集部）

1

SDGsの取組段階

SDGsに取り組む際、取組の達成段階は、概ね3段階で評価できます。これからSDGsに取り組む中小企業においては、レベルⅠから始めて、Ⅱ⇒Ⅲへとレベルアップすることを推奨します。

【レベルⅠ：マッピング】

自社の事業活動（製品/サービス）や環境（品質）目標について、SDGsの課題（17の目標や169のターゲット）に当てはまるものを紐付け（マッピング）することで、SDGsへの理解を深める。

※このレベル止まりの場合、SDGsウォッシュ（うわべだけ）になる危険性もある。

【レベルⅡ：SDGs経営】

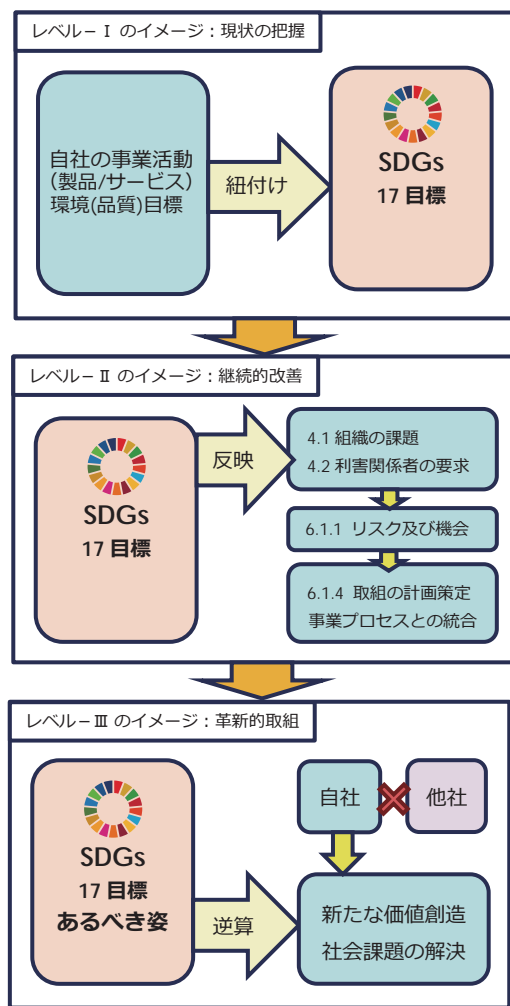
組織の課題（4.1）や利害関係者の要求事項（4.2）に、SDGsの課題を反映してEMSの活動内容（取り組む必要のあるリスク及び機会）を決定する（6.1.1）。

この取組みの計画を策定（6.1.4）し、自社の事業計画に組み込むことで、SDGsの取組みを事業プロセスに統合させられる。

【レベルⅢ：イノベーション】

SDGsの課題（あるべき姿）から逆算し、自社の事業活動を根本から見直すことで、新たな共通価値を創造する。（他社との連携も）

新たな共通価値として、製品/サービスレベル、バリューチェーンレベル、地域エコシステムレベルの3つがある。



取組事例-1 (製造業)

《従来の取組》

製造過程で発生する材料シートの端材は産業廃棄物になるので、削減活動に取り組む。

《SDGs 経営の取組》



これまで全て廃棄していた材料シートの端材を、デザイン会社と提携し(⇒目標17)、機能的で安価なエコバッグとして再生し(⇒目標12)、市場で販売する新たな事業を立ち上げた。この事業の製造現場では、障害者雇用を積極的に推進した。(⇒目標8)

※17の目標は相互関係が強い為、1つの取組で複数の目標に貢献できる場合が多い。

取組事例-2 (建設業)

《従来の取組》

設備補修事業の非破壊検査前処理(錆落とし)工程をハンドグラインダーで実施。

《SDGs 経営の取組》



レーザークリーナーを導入し、作業方法を変更することで、作業時の騒音・振動や発塵がなくなり、作業者への負担が軽減された。(⇒目標3)
 大量に発生していた削りクズも殆ど出なくなった。(⇒目標11、12)
 作業性も大幅に向上し、設備補修事業の工期短縮が実現された。(⇒目標9)

※中小企業は、ものづくり補助金等を活用することで、設備投資の負担も下げられる。



2

SDGs経営の取組事例

中小企業におけるSDGs経営の取組事例を上図にて紹介いたしました。外務省のHP「JAPAN SDGs Action Platform」でも多くの事例が紹介されていますので、自社取組の参考にしてください。

3

2030年に向けて企業の課題

近年、様々な自然災害や感染症等の発生により、中小企業を取り巻く経営環境は激変し、企業のあり方を根本から見つめ直す機運が高まっています。この課題解決に有効なツールとして「SDGs経営」があり、SDGsの17ゴールを自社のISO活動に反映させて取り組むことで、社会課題の解決と企業存続の両立が期待できます。

但し、この両立の実現には、経営者の「自社の強みを活かし、環境・経済・社会の統合的な視点で課題解決に挑戦する」という意識変革と強いリーダーシップが求められます。

2030年のグローバルゴールに向け、SDGs経営の実践を通じて「本業で社会課題への貢献」を実現する、サステナブル(持続可能)なISO企業を目指していきましょう。

筆者紹介

角子 裕司 (かくし ゆうじ)

鉄鋼関連機関にて環境分野に関する調査・分析・品質管理業務等に従事。独立後、各種マネジメントシステムの構築および運用支援サービスを提供、実績多数。現在、中小規模製造業の経営体質強化支援を中心に活動。兵庫県在住。

